

## 第3学年C組 英語科授業案

公開Ⅱ  
授業者

3C教室  
天野万喜男

### 1 単元 *Janglish* (Japan in the World)

#### 2 単元の構想

##### (1) 本単元で目指す子どもの姿

*Singlish*に出会った子どもは、世界共通語としての英語の汎用性や独自性に興味をもち、世界の英語を調べる。日本で学ぶべき英語に着目した子どもは、*Janglish*として日本の英語について考えをまとめ、外国の人と意見を交わし、*Janglish*を更新、実践し続ける

##### (2) 本単元で伸ばしたい力

子どもは、英語の問題解決的学習過程を繰り返し経験し、宗教観や食文化といった世界と日本の間にある様々な問題の本質に迫ってきた。そして、自国と他国との対比を積み重ねることによって、自分あるいは日本国民としてのアイデンティティを育み、自文化理解力を伸長し、並行して異文化受容力を伸長してきた。

本単元では、世界共通語となった英語を教材とし、異文化受容力と自文化理解力を高める。現在日本では、アメリカ式の発音や表記を標準とした英語が多く学ばれているが、英語発祥はイギリスであり、オーストラリアやインドなどでそれぞれ派生、発展している。またシンガポールでは、地域特有の英語として*Singlish*が生まれている。子どもは、さまざまな文化や国民性を背景としたWorld Englishesについて追究し、日本で学ぶべき英語を*Janglish*としてどのように捉えていったらよいか考え、実践する。

##### (3) はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

PROSPECTの段階では、シンガポール特有の英語である*Singlish*と、世界にはさまざまな英語が存在するというWorld Englishesの考え方を紹介する。子どもは、学校で学ぶアメリカ式の英語こそが英語であると考えている。よって、*Singlish*は英語として通じるものなのか、どんな特徴があるのか、また世界の英語にはどのようなものがあり、違いは何なのか確かめてみたいと思い、聞き取りや文献調査を行う。

PROGRESSの段階では、世界の英語について聞きたいと願う子どもの思いをもとに、シンガポール出身の留学生やイギリス出身のALTから、英語について話を聞き意見交流を行う機会を設ける。子どもは、聞き取りや文献調査を経て、英語の汎用性や独自性を知り、さまざまな英語を対比させる。そして“*What is the difference among World Englishes?*”をテーマに意見交流を行う。World Englishesの種類や特徴、歴史や文化といった視点で分類をした後、“*global English*”をキーワードとして焦点化することで、子どもは、世界共通で使える英語のあり方に着目する。さらに、“*Singaporean and Indian proudly speak their English. Japanese should speak English like them.*”と考える子どもの意見を取り上げる。子どもは、World Englishesにおいて、日本で学ぶべき英語を*Janglish*としてどう考えていったらよいか明らかにしたいと願い、調べ始める。追究を進める中で、現在日本で多く学ばれているAmerican Englishに着目した子どもの意見から、意見交流のテーマを“*We should continue to learn American English.*”と設定する。子どもは、日本人の英語の特徴や日本で学ぶべき英語について、外国の人や英語教育に携わる人から聞き取ったり、文献調査をしたりして、意見交流に臨む。意見交流を経て、日本で学ぶべき英語についての考えを深め、更に外国の人や英語教育に携わる人と意見を交わしたいと思った子どもは、意見交流の計画を立てる。

PROCEEDの段階では、日本で学ぶべき英語について意見交流を重ねる。そして、子どもの意見の中から、“*What do we think about Janglish?*”を取り上げ、テーマとして意見交流を行う。*Janglish*のあり方を見つめた子どもは、これからも日本内外で積極的に英語を使いたいと願い、意見をまとめ直して再発信したり、自らの英語学習に生かしたりして実践し続ける。

段階	主なはたらきかけ □ 思い・考え    ■ 「学んだこと」    ▽ 子どもの行動	英語科で重視する力
PROSPECT	<p>国際社会で生きるために、世界共通語である英語を学びたい    英語を身につけ、外国へ行ったり、外国の人を迎えたりしたい</p> <p>Singlishも英語の一つなのだろうか 1～2時</p> <p>シンガポールだけで通じるのは、英語とは呼べないのではないか    英語は世界中で使われている。独自の英語があるとは驚きだ    World Englishesとはいったいどのようなものなのだろうか</p> <p>Singlishははたしてどのくらいの汎用性があるのか調べたい    どうして独自の英語が存在しているのだろうか    世界にある様々な種類の英語の違いを明らかにしたい</p> <p>Singlishをはじめ、世界にはいろいろな英語の種類があるようだ。どんな違いがあるか調べてみたい</p> <p>世界の英語について調べる 3～8時 (本時8)</p>	<p>英語科で重視する力</p> <p>☆異文化受容力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界各国でそれぞれ話されている英語について知り、違いや派生した経緯を知り、詳細を明らかにしようとする</li> </ul>
PROGRESS	<p>〇具体物やデータの提示 世界に存在するさまざまな英語について気づけるように、SinglishとWorld Englishesについて紹介する</p> <p>〇人との出会い 英語の汎用性と独自性に注目できるように、SinglishやBritish Englishなどの世界の英語についての話を外国の人から聞く機会を設ける</p> <p>〇思いや考えの焦点化 日本で学ぶべき英語に着目できるように、子どもの“Japanese also speak English proudly.”という意見を取り上げる</p> <p>〇意見交流のテーマ設定 による焦点化 Janglishについて考えを深められるように、“We should continue to learn American English.”を意見交流のテーマに設定する</p> <p>日本で学ぶべき英語Janglishとは、どんな英語なのだろうか</p> <p>コミュニケーションこそ大切。Globishを世界基準の英語とすればよい    よりよいJanglishをどう考えていったらよいのか    外国の人は日本人の話す英語をどう捉えているのだろうか</p> <p>Janglishを考えるには、日本人の特徴を捉え、外国の人や言語の専門家からの意見をもらうことも重要だ</p> <p>Janglishについてまとめ、意見交流をする 9～12時</p>	<p>☆英語活用力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>意見を述べるための新たな表現方法として、後身修飾表現をつける</li> </ul> <p>☆自文化理解力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国で様々に変えられて使用されるようになった英語をもとに、日本における英語を考える</li> </ul>
PROCEED	<p>〇意見交流のテーマ設定 による焦点化 今後の英語への取り組みに見通しをもてるようにするために、単元終末の意見交流のテーマを“What do we think about Janglish?”とする</p> <p>受け身の姿勢をあらため、積極的に英語を使うことが大切だ    World Englishesのうちどれか一つを身につければよい    発音記号を大事にし、確実に相手に伝わるようにしたい</p> <p>世界の仲間と通じ合うためのJanglishを堂々と使いたい    日本の国民性や文化を鑑みたJanglishを考え続けたい    身振りや手振りなど非言語の伝達手段も意識したい</p> <p>Janglishを身につけ、たくさんの外国の人を受け容れたり、外国へ行ったりして、外国とのつながりを密接にしていきたい</p> <p>Janglishを更新し、身につけていく</p> <p>国際社会で活躍するための英語を身につけたい    日本を訪れる観光客のための英語を身につけたい</p>	<p>☆自文化理解力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の中にある日本の立場を自覚し、今後も積極的にJanglishについて考え、実践していこうとする</li> </ul>

4 本時の構想 (8/12)

Singlish、そして World Englishes に出会った子どもは、興味をもち、それぞれの違いを調べた。シンガポールからの留学生やイギリス出身の A L T から聞き取りをした子どもは、World Englishes について更に興味を深めた。意見交流を経て、日本で学ぶべき英語に目を向けた子どもは、“We should continue to learn American English.” を意見交流のテーマに決め、追究を進めた。子どもは、空港での外国の人への取材や、英語教育に携わる人への電話取材などを重ね、意見をまとめていった。

本時は、Agreement が多数を占めることが前提となる。意見を、world common language、communication is important、Globish / the other English、culture、others に分けて板書していく。そして、“English spoken by Japanese must become *Janglish*. All the Englishes can become like their own language.” と考える 〇 の意見を取り上げ焦点化する。子どもは、あらためて日本人の特徴を見つめ直し、*Janglish* のあり方に目を向け、考えをまとめ、外国の人や言語の専門家と更に意見交流を行う計画を立てる。

